令和5年度　学校自己評価表　廿日市市立四季が丘中学校

学校教育目標　「ともに学び自ら伸びる～自他尊重～」

	評価計画						自己評価					学校関係者評価	改善方法
	中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための方策	評価項目・指標	目標値	昨年度	中間値	最終値	達成度	評価	結果と課題の分析	コメント	
確かな学力・体力の向上	生徒が主体的に学ぶ教育を推進し、自分の考えを表現できる力を育成する。（主体性と表現力の育成）	【主体性と表現力の育成】 ①日頃の授業をより主体的にする工夫・改善を行う。 ②「本質的な問い」による授業改善を進める。 ③ディスカッションによる思考の深化を図る授業づくりを行う。 ④ICTの効果的な活用を進める。 小中一貫教育による主体的な学びをさらに前進させる ⑤プロジェクト型学習による「ふるさと再発見学習」を進める。 ⑥「生き方学習」により主体的に進路を選択する力を育成する。	①-ア　自ら発見した課題に「考えを持つ」「考えを伝える」授業の構成 ①-イ　四季中スタイルの実践と充実（学習規律の徹底・「めあてと振り返り」によるメタ認知能力の育成） ②-ア 「本質的な問い」を踏まえた「質の高い問い」の設定 ②-イ　生徒の学びをファシリテートする授業の実践と充実 ③「四季中ステップ『四季が丘ディスカッション段階表』」による生徒の実態や学習内容に合った協働学習の実践と充実 ④-ア　生徒が主体的に学ぶためのツールとして効果的な活用 ④-イ　G Suite等による個別最適な学習の実施 ⑤地域人材の活用を通した未来創造的な学習の実践 ⑥「15歳の生徒に身に付けさせたい力」の意図的、計画的な指導	・「話し合い活動に自ら進んで参加して自分の考えをもったり、伝えたりすることができている」と回答する生徒の割合（授業評価アンケート）	90%	82%	85%		94%	B	○小グループでの活動は授業だけでなく、行事やSHRでも活用されているので、その中で自分の意見を言ったり、相手の意見を聞くことは自然なことになっている。 ●正しいディスカッションの手法というものを授業者がしっかり持っていなければならない。班にして意見交換をさせるだけで終わってしまうことも多く、お互いの意見からさらに討議を続け、深めていくか、研修で交流する機会を持つことも必要だと思われる。		
				・「四季中授業スタイル（「めあて」と「振り返り」、学習規律の徹底）」を実践している」と回答する教師の割合（教職員アンケート）	90%	－	100%		111%	A			
				・「四季中ディスカッション段階表」を活用して思考の深化を図る授業づくりを行っている」と回答する教師の割合（教職員アンケート）	80%	50%	67%		84%	B			
				「ICTを活用している」と回答する教師の割合（教職員アンケート）	80%	75%	78%		98%	B	○県外への先進校視察で学んだことを、本校で実践できることから積極的に取り入れることができている。 ●Wi-Fiが使えない場所があったり、ネットが不安定になったりすることがあり、予定していた内容を急遽変更して授業を行わざるを得ないことがある。		
				学力調査の「思考力・表現力」の問題の通過率 （1月実施の学力調査問題による）	5教科中4教科全国平均以上	1年2/3教科 2年5/5教科	－				○小グループを活用した意見交換や協議を積極的に取り入れた授業展開を行っている。 ○定期テストにおいても、1問1答式の問題だけでなく、根拠をもとに考えを問う問題の出題を意識して行うようにしている。		
				・「自分の将来のことを考えている」と回答する生徒の割合（生徒アンケート）	85%	74%	78%		91%	B	○今年度は2年生がCSW（職場体験活動）を行うことができ、働くことについて体験を通して学ばせていただくことができた。		
				・「自分の思いや考えを相手に伝えることができている」と回答する生徒の割合（生徒アンケート）	85%	80%	85%		100%	A			
豊かな心	生徒一人一人が自分の良さや可能性を認識し、互いに認め合い、協働しながら課題を解決することのできる力を育成する。（協働性と自己有用感の育成）	【協働性と自己有用感の育成】 ①人とつながることのできる生徒を育成する。 ②小集団（班）から大集団（学年・縦割り）までの組織的な活用を進める。 小中一貫教育による協働性と自己有用感の醸成 ③いじめを許さない心の育成とかかわり合いを深める学級・学年づくりを行う。 ④不登校生徒等へのスペシャルサポートルーム（SSR）担当教師と特別支援教育コーディネーターを中心とした支援体制を整備する。	①-ア　生徒が主体的に取り組み、お互いに感謝を伝え合ったり、評価し合ったりする場の設定 ①-イ 「時を守る」「場を清める」「礼を正す」（四季中三大規律）を生徒が主体的に実践する委員会・係活動の充実 ①-ウ　生徒のディスカッションを経た生徒指導規程による生活ルールの主体的な実行 ②-ア　生徒会行事等におけるリーダーを中心とした主体的な活動の実施 ②-イ　異学年縦割り班でのリーダーを中心とした主体的な活動の実施 ③-ア　学年担任制を生かした教育相談体制の充実 ③-イ　アセスの活用による早期発見・早期対応 ③-ウ　校内いじめ防止対策委員会の機能化（組織的対応） ④-ア　SSRにおける指導と校内チーム体制の一層の充実 ④-イ　オンラインと紙媒体を併用したコグトレの実施による不登校の未然防止の取組の充実 ④-ウ　メンター制の導入による個に寄り添う支援の充実	「学級活動、行事、係・委員会活動などに前向きに取り組んだ」と回答する生徒の割合（生徒アンケート）	95%	96%	88%		93%	B	○今年度もディスカッションを継続し、身の回りの課題を自分たちで考え、解決しようとする主体性を育む取り組みを行っている。 ●昨年度は、生徒指導規程の見直しを行ったが、今年度は大きな議論をしていないので、意識が昨年度より低い。 ○生徒会執行部や学年のリーダーを中心に、行事等で取り組みたいことのアイディアを積極的に出すことができた。 ●月1回のディスカッションを授業やSHRなどで当たり前に行える状態にしていく必要がある。		
				「四季中三大規律」に関する項目に肯定的な回答をする生徒の割合（生徒アンケート）	90%	97%	95%		106%	A			
				「校則を守るよう意識している」と回答する生徒の割合（生徒アンケート）	90%	－	96%		106%	A			
				「友達や先輩後輩と協力するのは楽しい」と回答する生徒の割合（生徒アンケート）	90%	91%	92%		102%	A			
				自己有用感・自己肯定感に関する項目に肯定的な回答をする生徒の割合（生徒アンケート）	90%	88%	85%		94%	B	○体育祭での縦割り活動の復活やプールボランティアなど全校で行うボランティア活動などを通して、自己有用感を高める取り組みを実施できた。 ○小さなグループを各学年が積極的に活用することにより、不安を抱える生徒に目を向け、支援方法を考えることができるようになっている。 ○専門家との連携を含めた行内体制を確立して教育相談にあたることができている。 ●居場所アンケートでは、低い回答が目立った。集団とのつながりをいかにして作っていくかに課題を感じている。		
信頼される学校	働き方改革を進め、子どもと向き合う時間を確保し、地域と連携・協働し、教育の質を高め、信頼される学校をつくる。	【働き方改革の推進】 ・学年担任制の利点を生かし、子どもと向き合う時間を確保し、親身になって生徒に関わる組織を確立する。 ・職場環境の整備と教職員の意識改革を推進する。	①働き方改革による教育の質の向上 ・協働の職場風土の醸成 ・業務の平準化とOJTの推進 ②学校からの発信 ・定期的な学校だよりの発行 ・ホームページの定期的な更新 ・各学年、進路だより、保健だよりの発行 ③PTAとの連携 ・PTA活動の工夫改善、保護者満足度の向上 ④地域との連携 ・学校運営協議会の機能化 ・地域学校協働活動の充実	・「時間外勤務45時間超」にならない職員の割合	75%	66%	61%		81%	B	○夏季休業中に職員室の整理整頓を行い、談話スペースを設ける等、スペースの有効活用ができるようになった。 ●昨年度より1クラス減のため、教職員定数が減り、多忙感を感じる中、欠員の状態が続いていることが、さらに多忙感を増長させていると考えられる。		
				・「四季が丘中学校は働きやすい職場だと思う」と回答する教職員の割合	80%	69%	64%		80%	B			
		【積極的な情報発信】 ・積極的な情報発信を行い、保護者・地域の学校への理解を深めるとともに、協働関係を深める		・「学校の様子がよく分かる」と回答する保護者の割合	85%	74%	71%		84%	B	○学校だよりは定期的に発行し、本校のホームページにも掲載している。生徒の様子を見ていただくため、授業参観も月に1回程度のペースで行うことができた。 ●「四季が丘中学校で学ばせてよかった」という問いに対して、否定的な評価は7%で、「分からない」という回答が17%となった。		
				・「四季が丘中学校で学ばせてよかった」と回答する保護者の割合（保護者アンケート）	85%	79%	76%		89%	B			
		【地域連携、地域貢献】 ・地域の学校として地域の力を学校に積極的に取り入れるとともに、地域と協働し、生徒の地域貢献を進める。		「四季が丘中学校は、地域の学校として地域の力を学校に積極的に取り入れるとともに、地域と協働し、生徒の地域貢献を進めている」と回答する地域関係者の割合（学校関係者アンケート）	90%	100%	－				○学校運営協議会、四季中サポート隊、PTAをはじめ、地域の方々が本校への支援を様々な形でしてくださっている。		
【小中共通】	「協働し、主体的に学ぶ児童・生徒の育成」	「小・中共通テーマ」 協働し、主体的に学ぶ児童・生徒の育成	・本質的な問いによる授業改善 ・合同授業研究、合同教育研究会の実施	課題の解決に向けて、自分で考え自分から取り組む児童生徒の割合（生徒アンケート）	85%	76%	82%		96%	B	○小中で生徒指導、教務の視点から授業参観をして生徒について情報交換をしている。 ●なかなかじっくりと小中で目指す生徒像などについて話をする時間が持てない。小中9年間でしっかり育てていくため、それぞれの課題など整理して手立てについて考える時間をしっかりとっていきたい。		
		家庭学習習慣の確立	・各校や発達段階に応じた学習習慣を確立するための期間・内容の設定	「私はふだん家では一日1時間以上勉強しています」と回答する生徒の割合（生徒アンケート）	80%	60%	58%		73%	C	●クロムブックを活用したドリル学習（タブレットドリル、スタディギアなど）を提示しているが、生徒自身に、家庭で時間をかけてじっくり宿題に取り組むという姿勢がなかなか身に付かない。 ●家庭学習をしない生徒は教科内容の定着ができない。分からない内容にあきらめてしまい、家庭学習もしないから小テストでも結果が出ないという悪循環が続いている。宿題・課題提出についても同様である。		
		小・中共通の生活習慣の徹底	・小中合同あいさつ運動の実施	「あいさつがきちんとできる」と自己評価する生徒の割合 （学校評価生徒アンケート）	90%	96%	89%		99%	B	○9月13日に小中合同あいさつ運動を実施した。各小学校に24名、合計48名が参加した。強制せずとも前向きに参加してくれる人が増えた。 ●お客さん、大人に対してでなく、より近い関係での挨拶が自然となるところを目指したい。		